

水稲新品種「山形97号」の栽培研究が2年目に突入！

(農業環境研究部)

平成22年にデビューする新品種「山形97号」の栽培研究が2年目を迎えました。昨年に引き続き、「品質食味を重視した栽培技術の確立」「商品性を高める品質評価技術の開発」「ブランド米生産技術の確立」を3本柱に研究を進めています。その中で、本年度の大きな目玉は栽培適地マップの作成です。

どんな作物でも適地適作が基本で、この原理原則を無視した栽培はあり得ません。「山形97号」が持つ品種の能力を最大限に発揮し、しかも消費者や実需者に喜んで買ってもらえる品質食味に優れた米を安定的に生産することが大きな課題です。このため、昨年同様に県内30数か所に現地試験圃を設置し、適地マップ作成のための基礎データを収集することにしています。

これらのデータを基に、品質食味の高い「山形97号」が栽培可能な適地をマップ化し、平成22年の一般作付に備えていきます。

研究課題名：新品種「山形97号」の技術的評価と栽培法の確立

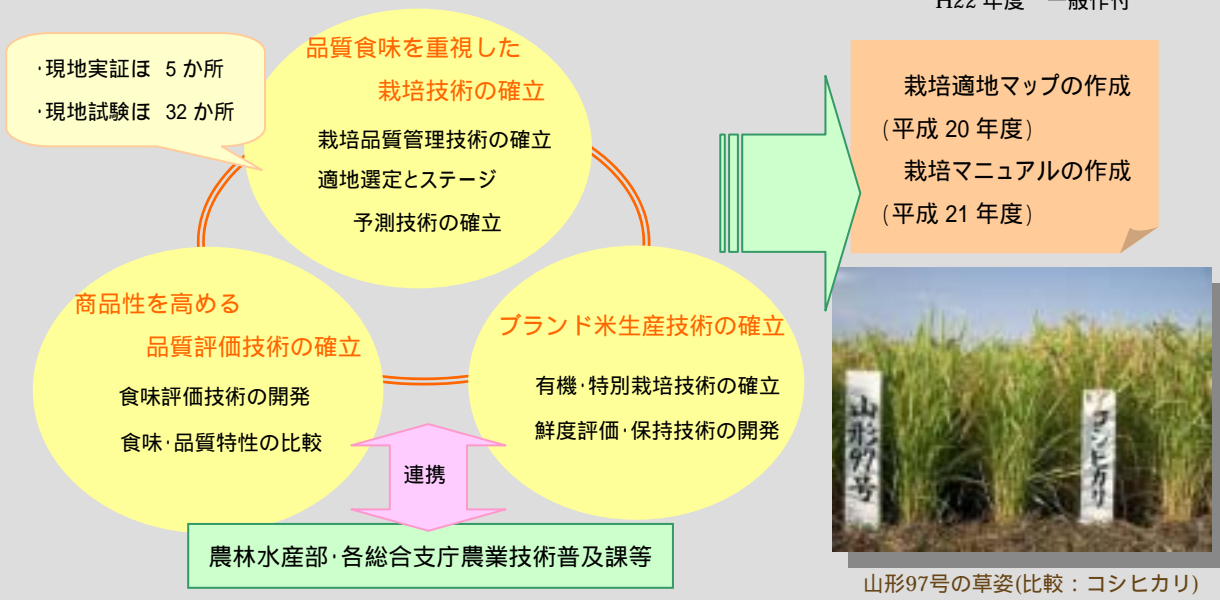
種子生産

H19年度 原々種生産

H20年度 原種生産

H21年度 採種

H22年度 一般作付



庄内支場で一斉田植を実施しました (農業生産技術試験場庄内支場)

米価の低下や転作の強化など、稲作を取り巻く状況は依然として厳しい中ですが、庄内支場では話題の新品種「山形97号」や、耕畜連携及び生産調整推進の有効な手段として注目されている「飼料用米」など大きな成果が期待されている試験に取り組んでいます。

5月9日は「山形97号の栽培試験及び作期試験」や「飼料用米に向く多収品種選定試験」及び「水稻奨励品種決定調査」などのほ場で一斉に手植え作業を行いました。いずれも期待の大きい試験であり、良い成果を目指して研究を行っていきます。

奨励品種決定調査ほ場での
手植え作業



今年も放牧の季節が到来しました！ (畜産試験場)

畜産試験場では平成17年度から、和牛繁殖雌牛の繁殖機能回復を目的にした“リハビリ放牧”、発情同期化技術やソーラー電牧を活用した“乳用育成牛の受胎率向上・集約放牧”技術実証のため、畜産農家から和牛繁殖雌牛と乳用育成牛を預かり放牧を行っています。

今年も5月8日に、残雪の月山、鳥海山を遠望し新緑に囲まれた芦沢放牧試験地で入牧が行われ、放牧された牛たちは我先に牧草地に走って行きました。

今後は、受胎率向上のためのホルモン処理や乳用育成牛への受精卵移植などを計画しています。放牧期間中の日中は職員が駐在していますので、お近くにお越しの際は、お立ち寄りください。



放牧の様子



スイカの省力栽培をめざして (農業生産技術試験場)

スイカ栽培では、つるの整枝作業に最も労力を要し、栽培面積減少の大きな要因となっています。今年度は、昨年の試験成果を発展させ、整枝作業の省力化・単純化を図るため、子づるの発生要因を解明するとともに、子づるの発生を揃える育苗法や整枝法について検討しています。現在は定植作業を概ね終了し、本畑管理を行いながら、逐次調査を進めています。



側枝発生調査



側枝を揃えるための育苗法の検討